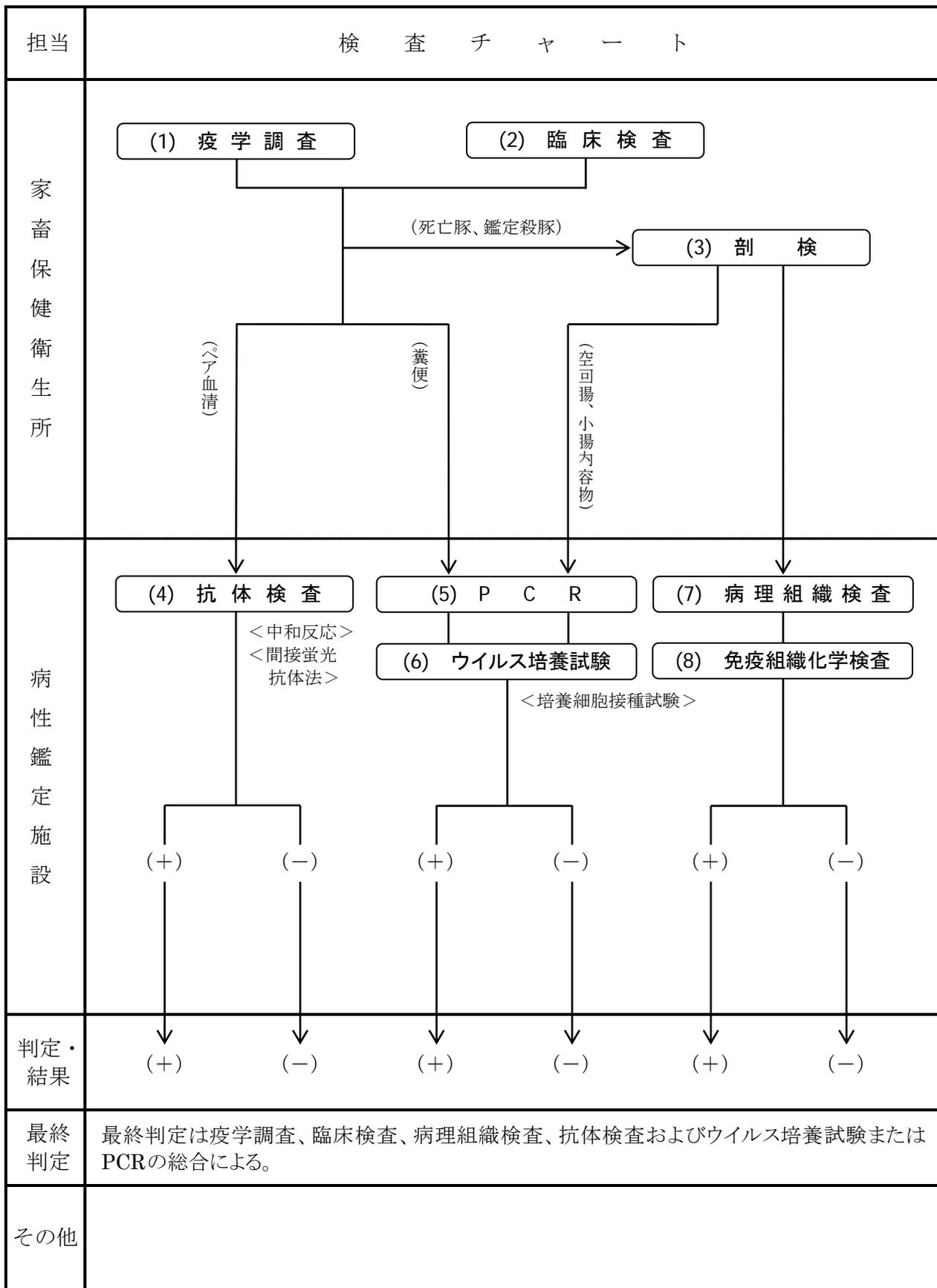


80 豚流行性下痢〔届〕



→類似疾病検査

- ① 70 豚コレラ ② 76 オーエスキー病 ③ 87 豚ロタウイルス病 ④ 77 伝染性胃腸炎
- ⑤ 98 豚大腸菌症 ⑥ 83 豚赤痢 ⑦ 73 サルモネラ症
- ⑧ 95 豚クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症

○ 病原体:豚流行性下痢ウイルス; Porcine epidemic diarrhea virus [*Porcine epidemic diarrhea virus*, *Alphacoronavirus*, *Coronaviridae*]

(1) 疫学調査

- ① 伝播が速く、高い発生率を示す。
- ② 年齢に関係なく発生する。
- ③ 主に冬期に好発する。
- ④ 周辺地域に本病の発生があった。
- ⑤ 本病のワクチン接種の有無
- ⑥ 子豚(2週齢以下)の死亡率が高い。

(2) 臨床検査

- ① 未消化凝固物を含む黄色水様性の下痢
- ② 嘔吐
- ③ 脱水症状
- ④ 母豚の食欲減退、発熱、泌乳量の減少または停止
- ⑤ 離乳期以降や肥育豚では症状が軽度(ときに不顕性感染)

(3) 剖 検

- ① 小腸壁の菲薄化、黄色水様性腸内容物の充満
- ② 哺乳豚では胃の未消化凝固乳滞留による膨満

(4) 抗体検査(中和反応、間接蛍光抗体法)

ペア血清を用いて、中和反応、間接蛍光抗体法などを行う。

(5) P C R ^{1), 2)}

ウイルス分離が困難であるため、補助診断として有用である。

(6) ウイルス培養試験(培養細胞接種試験)

使用細胞: Vero 細胞

接種材料: 下痢便、小腸内容物または粘膜の 10% 乳剤遠心上清

培養方法: トリプシン添加培地(10µg/ml)で 37℃ 培養。トリプシンは細胞培養用の 1:250 力価のものを使用する。

成績: CPE の確認。初代培養では CPE のみられないことが多いので数代の継代培養が必要

同定: 蛍光抗体染色により培養細胞中の特異蛍光の確認

(7) 病理組織検査

- ① 小腸絨毛の萎縮
- ② 粘膜上皮細胞の空胞形成、扁平化、壊死および剥脱

(8) 免疫組織化学検査

免疫組織化学検査による抗原検出

(参考文献)

- 1) Kim, O., et al.: Vet. Rec. 146, 637-640 (2000).
- 2) Ishikawa, K., et al.: J. Virol. Methods. 69, 191-195 (1997).